様式３　【物・文化財・風景など実態のあるもの】

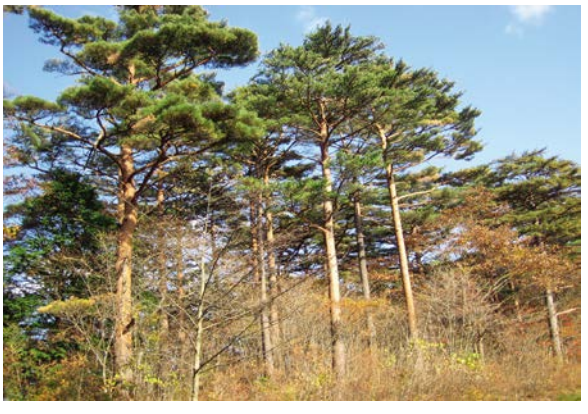
ふくしまの森林文化調査カード

No.1

県　HP公開の可否（ 可 ・ 否 ）

区　分	1. 森づくり　2. 森の恵み　3. 森と技 4. 森と暮らし　5. 森の文化財　6. 森の風景	
分野（ふりがな）	（分野） アカマツ人工林	（ふりがな） あかまつじんこうりん
地域独特の呼び方	―	―
タイトル	半田山のアカマツ人工林（ふくしまの森林をつくる樹木）	
伝承地域	半田山（伊達郡桑折町）は、幕藩時代佐渡の相川、但馬の生野と並び日本三大銀山に称せされた半田銀山があったことで知られる。現在半田山は手入れされたアカマツ等の人工林に覆われているが、これはほぼ百年に亘る植栽・治山事業の賜物である。	
由来(年代)	半田山は、1902（明治３５）年～1904（明治３７）年、山の東側半分で直径約1㎞の大規模な陥没地滑りが発生し、土砂が露出した大きな馬蹄形型陥没地形の荒々しい山容と化した。この時山腹にあった旧半田沼は消滅し、その南に現在の新半田沼が誕生した。この地滑りにより下流の人家約３０戸、鉱山長屋２６棟の移転が必要になった。さらに1910（明治４３）年の豪雨で半田沼は決壊し、下流山麓一帯は濁流に呑まれ耕地・人家に甚大な災害が発生し、1911（明治４４）年からの復旧工事により現在のアカマツ人工林が造成された。	
内容	半田山復旧工事は、当初福島県補助事業として旧半田村直営工事であったが、1922（大正１１）年から福島県直営工事となり1977（昭和５２）年まで続いた。この復旧事業は福島県初の治山事業となった。当初は荒廃地の植栽に重点が置かれ、1911（明治４４）年～1920（大正９）年までの間に、アカマツやヒノキ、スギなど１４０万本を超える植栽が行われ、かつての禿山は長年の苗木植栽や地盤保護工事などにより安定した林層を形成した。	
大きさ・材質	（大きさ） ―	（材質） ―
見頃	（緑の文化財、巨木など特定の時期に見頃が訪れるもの。） ―	
交通アクセス	JR桑折駅から車約20分、東北道国見ICから約30分.	
文化財等の指定状況	―	
問い合せ先	福島県立博物館（TEL：0242－28－6000）　桑折町教育委員会（TEL：024－582－3129）	

【フリーフォーマット】

キーワード
 アカマツ人工林　　地元小学校の学校林 （桑折町　半田山）